

大光議員の「市営住宅の財務管理について」のうち「市営住宅の老朽化の状況について」のご質問からお答えいたします。

市営住宅の中には、建設から40年以上経過している住宅もあり、老朽化が顕著なものも多く存在しております。

次に「市営住宅入居者の今後の推移について」であります。人口減少に比例して入居希望者数及び入居者数も減少していくものと考えております。

次に「市営住宅の維持管理費にかかる財源について」であります。市営住宅使用料及び駐車場使用料を財源としております。

次に「今後の財務管理の考え方について」であります。過去に整備した団地の財源として活用した地方債の償還を優先しております。

次に「民間住宅借上方式やPFI・官民協働方式などの考え方について」であります。今後の市営住宅運営において、有効活用が見込まれるものについては、検討して参りたいと考えております。

次に「高齢者の市営住宅入居について」のうち「入居希望者のニーズや待機者数について」であります。入居希望者のニーズとしては、階段の昇り降りがなく、エレベーターがあることが挙げられ、これの木団地9号棟から12号棟や駅前団地の希望が多く、待機者数については、令和6年11月末現在で、これの木団地が24人、駅前団地が11人となっております。

次に「高齢者の住居確保に向けた施策について」であります。高齢者の入居先は、エレベーターがある団地又は各団地の1階の部屋としており、新たな団地整備やエレベーターの設置については考えておりません。

次に「民営賃貸住宅の空き家を活用した家賃補助の考え方について」であります。現時点では、民営賃貸住宅の空き家を活用した家賃補助は予定しておりません。